

## 第2回 2016年5月12日(木)

第2回一流塾では、講師に下村朱美氏（(株)ミス・パリ 代表取締役、(一社)東京ニュービジネス協議会会長）と、福川伸次氏（一流塾特別顧問、(一財)地球産業文化研究所顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官）を、懇親会の特別ゲストには老川祥一氏（読売新聞グループ本社 取締役最高顧問・主筆代理・国際担当（The Japan News 主筆） 読売巨人軍 取締役オーナー）をお迎えしました。



【講師 下村氏】

第1部では、『日本を美容大国にする』と題して下村氏が講義を行いました。講義の冒頭、実業家は凡庸であってはならない、イノベーションは今いる組織の中にはない、会社はこれで良いと思ったら衰退がはじまるなど、経営者として常に気をつけるべき視点をお示し頂きました。その後、起業家としての歩みを、体験談を交えてお話し頂きました。24歳で起業し、美容業界で全国規模に会社を成長させるまでには、どんな苦労も面白いと思い、ピンチすらも楽しみながら、他の人の倍の時間働いてきたことをご紹介頂きました。また、理論の分かるエステティシャンによるサロンを作り広めることへの情熱や、社員と同じ夢を持ち同じ方向を向いて走り続けることの醍醐味など、経営者としての情熱を語って頂きました。柔らかな口調でありながら経営者としての強い信念を持つ下村氏のお話しには、塾生から、「夢を実現するために困難なことにも明るく立ち向かう姿勢に感銘を受けた」、「分かりやすくお話し頂きながら、経営者としてのパワーを感じた」、「顧客志向で社員を採用する大切さを学んだ」などの声があがりました。



【講師 福川氏】

第2部では、『日本力の変化と今後の展開-人間価値主導の経済社会の提案-』と題して福川氏が講義を行いました。講義の前半では、福川氏ならではの経験や卓越した情報収集力に基づく多角的分析により、戦後復興から現在の停滞する日本の経済社会の背景を的確にご説明頂きました。その上で、これから日本が目指すべき社会像として「日本力（ジャパナビリティ）」の持論を展開して頂きました。また、日本の強みと弱みを明確に示しながら、自己決定能力向上の必要性を「百考は一行に如かず」の言葉とともにお話し頂きました。講義の後半には、「日本力」の発揮によるイノベーションへの挑戦や、日本にとってのグローバリズムの意義をお話し頂き、これらを踏まえた新しい成長モデル「人間価値主導の経済社会」についてご紹介頂きました。政治・経済・文化の広範な領域に関する、福川氏の鋭くかつ明快な分析には、塾生から、「情報収集の幅広さに圧倒された」、「世界の中の日本の立ち位置を知り、その上で企業人として何をすべきかを考えさせられた」、「人間価値主導の社会という概念に感動した」といった声が寄せられました。

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶ならびに福川氏による乾杯の後、特別ゲストの老川氏から『安倍首相と参院選』と題して卓話を頂きました。首相在職日数が既に歴代5位となる安倍首相が、国民からの高い支持率を維持する理由や、参議院選挙の投票日が決まる背景や仕組み、またサミットと選挙との関係などを、政治秘話を交えてお話し頂きました。政治の背景や選挙の新たな見方などのお話には、塾生も熱心に耳を傾けていました。卓話後、各テーブルでは講師陣と塾生とのオープンな意見交換や議論が続きしました。

懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、袴を脱いだ交流が行われ、社会・経済の話から男性の美容の話まで多様な話題で一同大いに盛り上がり、熱い議論と共に塾長と塾生の交流が深夜まで続きました。



特別ゲスト 老川氏



懇親会風景



放談会風景